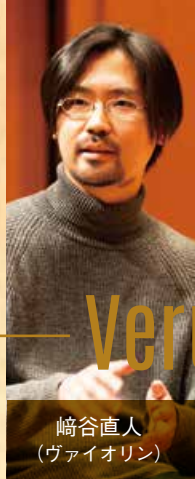


2017年1月から始まったベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会。若き実力派ウェールズ弦楽四重奏団が、ベートーヴェン生誕250年の2020年までに全16曲・全6回シリーズに挑みます。CD録音もスタートし、今年8月、折り返しの第4幕を迎えるメンバーの皆さんに、思いを語っていただきました。



崎谷直人
(ヴァイオリン)



三原久遠
(ヴァイオリン)



横溝耕一
(ヴィオラ)



富岡廉太郎
(チェロ)

Verus String Quartet

ウェールズ弦楽四重奏団インタビュー

クラシック音楽のイメージを超える ベートーヴェンの魅力

—これまでのシリーズを振り返って、どのように感じていますか。
富岡 実一人の作曲家の全曲演奏に取り組むのは初めてだったんです。しかもベートーヴェンの弦楽四重奏曲を、同じホールでシリーズとしてできるのはすごく幸せなことでした。回を重ねるにつれ、アンサンブルにおいても音楽的にも変化してきている気がします。

—ベートーヴェンという作曲家は、特別な存在でしょうか。
崎谷 ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は演奏家にとってすごく大切だし、簡単には手を付けられないものなので、たぶん各自の中で覚悟が要ったと思うんですが、ベートーヴェンだからと

—第4幕の聴きどころをお願いします。
三原 今回は前期最後の第6番と後期の有名な第13番「大フーガ付」です。6番は聴きやすく、かつ中期のベートーヴェンを予感させる作品。かたや13番は今の時代に聴いても新しく感じられ、ベートーヴェンより後の時代を予感させる作品です。前期の曲と後期の曲は聴いた時の印象がかなり違い、後期の方が難しく感じるとしています。ただ13番は、5楽章に「カヴァティーナ」と呼ばれるとても美しい楽章があって、そのあとに「大フーガ」という、ちょっとロックのような、シヨッキングな6楽章がくる。このギャップがすごい。いわゆるクラシック音楽のイメージを超越したはるかにアグレッシブなベートーヴェンを、ぜひ聴いていただきたいです。

—全体のプログラミングの意図はどんなところですか。
三原 6回シリーズなので、前期・中期・後期の曲から、毎回なるべく各1曲ずつ聴いていただけるプログラムを考えました。一つひとつの演奏会に必ずテーマを作って組み合わせさせています。

—結成13年を迎え、これまで、そしてこれからの思いをお聞かせください。
横溝 今までを振り返って、このシリーズもそうですが、その都度いい機会をいただけて幸運だったなと思います。
崎谷 2008年に「ミュンヘン」で賞をとった後スイスに留学して勉強し直したんですが、それですごく勇気が要ることでした。もう修行僧みたいな状態でお金にもならないし(笑)。最初は演奏会もなかったけど、少しずつ声掛けしてくださる方が増えてきました。もし受賞後そのままやっていたら、今の活動はないかも知れないと思います。

—最後に、クラシック以外の音楽は聴きますか？他に好きなことは？
崎谷 クラシック以外が圧倒的に多い。バスケット観るのも好きですね。
三原 僕はクラシックしか興味がない。勉強じゃなく趣味でもよく聴きます。
横溝 洋楽を聴くのは好きだけど、クラシックは普段まったく聴かない(笑)。スポーツが好きで何でもやります。

—大分にはどんな印象をお持ちですか。
三原 大分のお客様は熱心で、音楽を大事にしてくださいの印象があります。
崎谷 仕事でもプライベートでも来ていますが、食べ物おいしい。カボスの時期には大量に買って帰ります(笑)。
横溝 富岡と僕は、大学生の時「アルゲリッチ音楽祭」に桐朋のオケで出演しました。僕はそれ以来、毎年来ていて、大分にはお気に入りの居酒屋も(笑)。
富岡 僕は焼酎の「いいちこ」が大好きなので、大分に来るのは楽しみです。

※ミュンヘン国際音楽コンクール第3位

今回は8/7(水) 19:00~
iichiko presents
ウェールズ弦楽四重奏団
ベートーヴェン
弦楽四重奏曲全曲演奏会 ~第4幕~

曲目: ベートーヴェン作曲 弦楽四重奏曲
第6番 変ロ長調 作品18-6
第13番 変ロ長調 作品130/133「大フーガ付」

■第3幕公演レポート

1月16日 iichiko音の泉ホールで開催された第3幕のプログラムは、中期・後期を代表する第9番「ラズモフスキー第3番」と第15番。みずみずしい弦の響きに魅了された第9番、哀愁を帯びた美しい旋律が心に残った第15番。驚異的ともいえるほどびたりと息の合ったアンサンブルは、回を重ねるごとに深みを増しているように感じられました。4人4様の演奏スタイルが視覚でも楽しめるのは、小編成のカルテットならではの醍醐味です。ステージを食い入るように見つめながら聴く、熱心な聴衆の姿が印象的でした。熱い拍手に促されて演奏されたアンコール曲は、なんとモーツァルト!

